

専門部会における新型コロナウイルス感染症関連意見一覧

県が策定中の「新型コロナウイルス対策県政ビジョン（仮称）」に専門部会の審議内容を反映させるため、2回の専門部会において発言があった新型コロナ関連話題を次のとおり整理し、総合政策課に提出しております。

No.	委員名	意見提示の時期	意見の内容	意見が提示された背景
1	豊田哲也 委員	第1回 専門部会	<p>【オンライン学習による学びの保障】</p> <p>新型コロナの感染拡大により再度学校が休校となる場合は、インターネット回線を利用したオンライン学習、リモート授業を導入し、学びを保障する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3月からの臨時休校期間中、県内でオンライン学習、リモート授業を実施した事例はほぼなく、プリント学習に留まった。 ・休校下でもこれまで実践してきた「深い学び」の質を確保するためには、双方向型のリモート授業が必須である。
2	豊田哲也 委員	第1回 専門部会	<p>【教員のICT操作スキルの向上】</p> <p>オンライン学習を実施するには、教員の操作スキルも必要になる。第2波が来る前に、オンライン学習を実施できる体制を整備しなければならない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・臨時休校期間中にリモート授業を実施した事例がほぼなかった原因として、教員の操作スキルの不足という理由も考えられる。 ・教員のスキルの差が、児童生徒の学びの差になってはならない。
3	林信太郎 部会長	第1回 専門部会	<p>【休校措置への対応】</p> <p>特に小学校において、休校の影響が大きかったと考える。学校に集まらなくとも子どもたちの学習が継続できる体制を整備する必要がある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習習慣が身に付いていない小学校低学年は、休校期間中に自分の意志で学習に向かうことができなかった。 ・休校により適切な時期に、基本的な生活リズムや学習習慣を身に付けるという部分の指導ができなかった。
4	豊田哲也 委員	第1回 専門部会	<p>【家庭におけるネットワーク回線の保障】</p> <p>リモート授業を実施するためには、家庭に端末や通信回線が整備されている必要がある。普及率が100%ではないことから、未所持の児童生徒に対する臨時的な措置が必要である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・リモート授業を展開するとなった場合、環境等の格差が学習機会の格差につながることは避けなければならないため。
5	豊田哲也 委員	第1回 専門部会	<p>【オンラインを活用した国際交流の実施】</p> <p>これまで行ってきた訪問型の海外交流は不可能である。これまで蓄積してきた関係性を有効活用し、オンラインでより多くの生徒が交流に参加できる仕組みを構築するべきである。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・渡航制限などによりこれまで通りの活動が実施できないが、国際交流活動は必要である。 ・オンラインを活用することで、安価で多くの生徒が参加可能な策がある。

No.	委員名	意見提示の時期	意見の内容	意見が提示された背景
6	豊田哲也 委員	第1回 専門部会	【「学校」だからこそできる活動の見直し】 学校でしかできないという視点が重要になってくる。体育や集団活動は豊かな人間性を育むために重要である。また休校や授業回復措置などによる精神的な負荷も子ども達にはかかっていることから心のケアも重要である。	・オンライン学習時代の学校の新たな価値を考える必要がある。 ・休校、行事中止、夏休み短縮など特別な出来事による精神的な負担を軽減し、問題行動等に発展することを防止しなければならない。
7	佐藤有加 委員	第1回 専門部会	【ネット依存等に関する指導の強化】 今回の休校期間中において、ネットやゲームにより著しい生活習慣の乱れを起こした事案が多数あったと聞いている。学校が再開している間にこうした部分の指導を行う必要がある。	・昼夜逆転、軽度依存、廃課金などの事案が散見されたため。 ・第2波によりまた長期的な休校となる前に保護者を含めた生活習慣の指導が必要と考えられるため。
8	豊田哲也 委員	第2回 専門部会	【商業分野のオンライン化の発展】 今回コロナがあつて、ネット通販会社等が増収増益になっているようだ、各県でも地場産品の宅配販売に力を入れているが、秋田県の事業者はこの部分の取組が弱いように感じる。	・世の中の流れに乗り遅れることは産業の衰退につながる。先を見越した取組を先手先手で進めることが秋田の産業の維持、発展につながると委員は考えている。
9	豊田哲也 委員	第2回 専門部会	【修学旅行等への県内遺跡の活用】 コロナの発生により修学旅行先の変更などが検討されているようだ。秋田県内には様々な遺跡があることから、こうしたものを活用した修学旅行プランなどが企画できるのではないか。	・東京や仙台などの都市部を目的地とした修学旅行の実施が難しい状況にある。 ・県内の遺跡類を正しく理解するふるさと教育が、遺跡を活用した観光産業などの起業につながる。
10	豊田哲也 委員	第2回 専門部会	【オンライン診療体制の確立】 病院側で体制が整っても、高齢者側の体制が整わなければ待合室の混雑等は解消しない。個々に使用できるようになることが難しいならば、公民館等の地域施設を拠点としたサテライト型のオンライン診療室も考えられるのではないか。	・病院に通う、待合室で待つという行為の危険度の高さを考慮しつつ、診療機会を確保する案が必要と、委員は考えている。 ・コロナかインフルエンザか風邪か分からないまま家で我慢してしまう状況は避けなければならない。

○ビジョンは、取組の方向性を示すもので、具体的な事務事業レベルまでは記載されない予定です。

○ビジョンの公表は、9月定例県議会時を予定しています。

○ビジョンの内容は、概ね次のとおりです。

①ウィズコロナ：コロナ下にあっても進めるべき3期プランの取組とその方向性など

②アフターコロナ：パラダイムシフト後の新しい社会を見据えて取り組むべき施策視点など